

目次

- 2 **巻頭エッセイ**
英語ではどう言うのかな
- 4 **過去問に学ぶ**
正解を得るだけにとどめずに
- 6 **語彙をふやそう**
身体部位の名称
- 8 **看图学成语**
絵で見る成語(14)
- 10 **紛らわしい文法表現**
“很美”“特别美”“多美”
- 12 **翻訳添削**
どこがおかしい？なぜおかしい？
——「日文中訳添削講座」から(20)
- 14 **新しいことばと古いことば**
抜群の人気を得た流行語——“给力”
- 15 **読者の広場**
中国語学習のミソ
出来る男は字がていねい
——簡体字を正確に

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

英語ではどう言うのかな

日本中国語検定協会評議員・立命館大学 斎藤敏康

NHK大河ドラマ「八重の桜」の主人公、山本八重さんの夫になるのが新島襄である。新島は後年「キリスト教国際主義」を建学の理念とする同志社を設立する。アメリカの社会制度とキリスト教に憧れ、幕末、国禁を犯してアメリカへの渡航を試みるのだが、途中の香港で武士の魂である刀を売り、漢訳聖書をあがなう。これがおそらく襄が自分のものとして聖書を所有した始めである。同志社大学の小原克博教授は、ロバート・モリソンの設立になる香港の英華書院で、襄が入手したと思われる聖書にたどり着いている。聖書の翻訳は中国の方が早い。1920年代から60年代にかけて何種類もの旧約、新約聖書が香港や上海で出版されているが、襄が求めたのは新約聖書であると思われるので、23年に刊行された英華書院刊行のものではないかという。するとそれはモリソン自身が漢訳に携わった『神天聖書』かもしれない。仮にそうでなくても、その後の旧、新約聖書の漢訳は『神天聖書』の改訳という形をとっていくので、それが襄の聖書の源流であるとはいえる。

聖書だけではなく19世紀中ごろの「西学」、特に英語による学問は中国が何歩か先を行っていた。1848年にはメドハーストの『英華字典』が編纂され、69年になるとロブシャイド『英華字典』が刊行される。福沢諭吉や西周ら明治の洋学者はこれらの辞書で学んだのである。日本の英学は漢語を媒体にして始められた。漢語を介することによって、時に誤解や変容が起こったとしても、漢字文化を基礎に西欧文化を受容して日本文化に融合させる試みは興味つきない知の遊戯でもあったに違いない。

國立臺灣師範大學國語教學中心 (National Taiwan Normal University Mandarin Training Center) はマンダリン・スクールとして夙に有名で、欧米人に漢語を教授してきた長い歴史をもっている。台湾師範大センターの「語文教材」は「生字和生詞」を英語で注釈している。また初級クラスの『國語會話』は課文も英訳されている。こうした作り方はかつての北京大学教材『汉语初级教程』なども同様であり、私が授業で使いはじめた北京語言大学出版社の『语言技能类一年级教材 汉语教程 修订本』も単語の意味は英語である。例えば「生詞 New Words」「変化 (動, 名) bianhua to change;change」「还 (副) hai also;as well;too;in addition;still;yet」といった具合である。

これは勿論、初めて漢字を習い漢語を学ぶ欧米人の便を考えてのことである。しかしまた日本人の学生にもちょっとした異化効果を及ぼすようである。「抱歉は sorry, 劳驾はExcuse meだ。それじゃあ对不起は?……以外に難しい。pardon meもあるけど、be unfair toなんて用法もあるし、disserviceの意味もある。」もともとは何か少し重い意味を含んでいる。食堂で友達に「ゴメン、箸とって」というのは「劳驾」だ。「对不起」はその辺でやたらに使うものではないらしい、ということを生きたちはニュアンスとして理解するようである。またそこが狙いでもある。それは

たぶん日本語で漢語を理解するよりも知的好奇心をくすぐられる仕掛けである。はじめ日本語を介さずに漢語を英語にトランスレイトする。そしてその後日本語で、日本文化そのものでもある自分自身にトランスレイトする。それは単なる二重翻訳ではなく、漢字文化から英語文化を経由して日本文化にいたる転移を、あるいは言語によるトライアングルな越境を、ささやかながら体験していることでもある。はじめは露骨に眉をしかめて不平を鳴らしていた学生もはまると結構面白いようなのだ。いくつもの辞書を内蔵した多機能型の電子辞書という心強い味方もあるということ。

台湾師範大センター編纂の『實用國語會話(二)』に「新年晩會」という單元がある。師大國語中心では毎年新年に晩會を開催していて、各国の留学生や師大の教職員が思い思いの民族衣装でお国自慢を披露するのだが、一人の学生が昨晚のそれを振り返って「我昨天好像去参加了一次小小的聯合國之夜」と感想を語るのだ。問題は「聯合國之夜」である。語釈は「N: *United Nations night*」, 「聯合國 N: *United Nations*」とある。学生たちに訳させればたぶん「國際的な夜会」とか「國際色豊かな夜」などと意識するだろう。けれども私は「國際連合の夜」と硬訳する学生が現れることを密かに期待している。日本で「國際連合(国連)」と訳される組織は、英語では*the United Nations*であり、文字通り「聯合國」の意味である。そして「聯合國」とは第二次大戦における「枢軸国(*the Axis countries*)」に対する歴史概念である。この言葉の拡張は、大戦後の世界が「聯合國」の価値観と、「聯合國」中心の秩序に基づいていることを示している。*United Nations*が日本語で「國際」と訳されてしまった時に、私たちは大戦中から戦後へと確固として継続し発展したグローバルな価値観の一貫性に曖昧なヴェールを被せてしまったと思われる。

東アジア情勢の危うさが脳裏を去りやらぬ中で、副教材としてこのような材料を学生にあたえてみるのはどうだろうと思っている。

『中国語の環』第88号の本コラムで、植田均先生が「中国語はどの程度まで学ぶのか?」と問いかけておられる。「中国人のように」できるようになることはおろか、仕事や研究で一通り使えるようになるだけでも、なまなかの努力では追いつかない。またすべての人が一様に高い外国語運用能力を身につけなければいけないというわけでもない。

その点で欧州連合(EU)のめざす、統合の下での「文化・言語の多様性維持」のための一連の言語政策は興味深い。とりわけ2001年の「欧州言語共通参照枠」は欧州域内の複数言語の運用能力を初級から上級までの6段階で評価する統一基準をつくり、「二言語主義」を超えて学習能力、知識、文化、技能を含めた複合的なコミュニケーション能力の涵養を謳っている。

ヨーロッパとは言語環境が異なるアジアで容易に真似のできることはない。しかし二国間の異文化理解ではなく、個人が目的に応じて諸言語を使い分ける実態を想定しながら、統合的に複数言語を教授・学習する(複言語主義)という概念は私たちにとっても真剣な検討にあたいするのではないかと思う。

正解を得るだけにとどめずに

『中国語の環』編集室

3級と4級の筆記試験には、毎回、空欄補充、正しい語順の選択、語順の並べ替え等の問題が出題されている。これらの問題は単に正解を得るだけにとどめず、完成した文をしっかりと身につけ、文法の理解や日文中訳の力の養成に役立てたい。

- (1) 母は父より2歳年下です。(4・80)

妈妈 [_____] _____。

①两岁 ②小 ③爸爸 ④比

解説 正解は④比。妈妈比爸爸小两岁。「AはBより…だ」は、“A比B…”の語順で表します。

哥哥比弟弟大三岁。(4・78)

兄は弟より3歳年上です。

这件衣服比那件衣服贵一点儿。(4・72)

この服はあの服より少し高い。

上海比东京还热。(4・61)

上海は東京よりも暑いです。

今年夏天比去年热多了。(3・74)

今年の夏は去年よりずっと暑い。

- (2) 彼は毎日地下鉄で出勤します。(4・80)

他 [_____] _____。

①坐 ②上班 ③地铁 ④每天

解説 正解は④每天。他每天坐地铁上班。「地下鉄で出勤する」は“坐地铁上班”と連動文を用いて表現します。

我们一起去买东西吧。(4・79)

一緒に買い物に行きましょう。

我骑自行车去银行。(4・78)

私は自転車で銀行に行きます。

他常常来这儿看杂志。(4・72)

彼はよくここに雑誌を読みに来ます。

她在沙发上坐着看书。(4・72)

彼女はソファに座って本を読んでいます。

他用汉语问了我们几个问题。(3・62)

彼は中国語でわたしたちにいくつかの質問をしました。

- (3) 私は来年アメリカへ留学に行く予定です。(4・80)

我 _____ [_____] _____ 留学。

①去 ②明年 ③打算 ④美国

解説 正解は①去。我打算明年去美国留学。“打算”は「…する予定である」。動詞フレーズや節の前に助動詞的に用います。

我打算和朋友一起去唱卡拉OK。(3・77)

私は友達と一緒にカラオケに行くつもりです。

他不打算开车上班。(3・70)

彼は車で出勤するつもりはありません。

今年寒假我打算去中国学一个月汉语。(3・60)

今年の冬休みに中国語を1か月勉強しに中国へ行くつもりです。

- (4) 壁に1枚の世界地図が貼ってあります。(3・80)

墙上 _____ [_____] _____。

①世界地图 ②一张 ③着 ④贴

解説 正解は②一张。墙上贴着一张世界地图。存在や出現を表す文は、「場所・時間+動詞+その他の成分+事物」の語順で表します。

教室里坐着三个学生。(4・65)

教室に3人の学生が座っている。

昨天下午我家来了一位客人。(3・76)

昨日の午後わが家にお客さんが来ました。

学校门口停着一辆车。(3・63)

校門のところに1台の車が止まっています。

- (5) 昨日私は雨に濡れてしまいました。(3・80)

昨天 _____ [_____] _____ 了。

①被 ②淋湿 ③我 ④雨

解説 正解は①被。昨天我被雨淋湿了。受身文は「主語+“被”などの介詞+行為者+動詞+その他の成分」の順に並べます。“被”を使った受身文では最後の例文のように行為者が省略されることがあります。

我的自行车被弟弟骑走了。(4・76)

私の自転車は弟に乗って行かれてしまいました。

你的建议已经被公司采纳了。(3・77)

君の提案はすでに会社に採用された。

那本小说被小李借走了。(3・76)

あの小説は李さんに借りて行かれました。

我的钱包被偷走了。(4・75)

私の財布が盗まれてしまいました。

身体部位の名称

『中国語の環』編集室(U)

語彙をふやすために辞書や単語帳を頭から読んでいく人がいるが（中には覚えた分から紙を食べてしまうという人がいるとかいないとか）、あまり賢明な方法ではない。単調で退屈に陥らないためのさまざまな工夫が考えられるが、その一つで、最も古典的な方法は、関連する語彙を分類して覚えることである。まずは、「身体部位の名称」から。()内はよく使われる助数詞。

いくつかわかりますか？

以下はおよその目安です。

全部	40語以上	30語以上	20語以上
2級以上	3級レベル	4級レベル	準4級レベル

<input type="checkbox"/> 1. 头	tóu	頭。“脑袋”(nǎodai)とも。
<input type="checkbox"/> 2. 脸	liǎn	顔。
<input type="checkbox"/> 3. 脸蛋儿	liǎndànr	顔の両側；ほお、ほっぺた。
<input type="checkbox"/> 4. 腮	sāi	ほお。“腮帮子”(sāibāngzi)とも。
<input type="checkbox"/> 5. 嘴	zuǐ	口。(张 zhāng)
<input type="checkbox"/> 6. 嘴唇	zuǐchún	くちびる。
<input type="checkbox"/> 7. 牙	yá	歯。“牙齿”(yáchi)とも。
<input type="checkbox"/> 8. 门牙	ményá	前歯。
<input type="checkbox"/> 9. 舌头	shétou	舌。
<input type="checkbox"/> 10. 喉咙	hóulong	のど。“嗓子”(sǎngzi)とも。
<input type="checkbox"/> 11. 鼻子	bízi	鼻。
<input type="checkbox"/> 12. 鼻孔	bíkǒng	鼻の穴。“鼻子眼儿”(bíziyǎnr)とも。
<input type="checkbox"/> 13. 鼻梁(儿)	bíliáng(r)	鼻筋、鼻柱。“鼻梁子”(bíliángzi)とも。
<input type="checkbox"/> 14. 耳朵	ěrdou	耳。(只 zhī)
<input type="checkbox"/> 15. 睫毛	jiémáo	まつげ。
<input type="checkbox"/> 16. 眼睛	yǎnjing	目。(只 zhī)
<input type="checkbox"/> 17. 眼珠(儿)	yǎnzhū(r)	目の玉。“眼球”(yǎnqiú)の俗称。
<input type="checkbox"/> 18. 眉毛	méimáo	まゆ、まゆ毛。(道 dào)(双 shuāng)
<input type="checkbox"/> 19. 颧骨	quángǔ	ほお骨。
<input type="checkbox"/> 20. 下巴	xiàba	あご。“下巴颏儿”(xiàbakēr)とも。
<input type="checkbox"/> 21. 头发	tóufa	かみ、かみの毛。
<input type="checkbox"/> 22. 辫子	biànzi	おさげ。(条 tiáo)

□23. 胡子	húzi	ひげ。(根 gēn)(绺儿 liǔ)(部 bù)
□24. 脖子	bózi	くび。
□25. 前额	qián'é	ひたい。“额头”(é·tóu)とも。
□26. 后脑	hòunǎo	後頭部。
□27. 手	shǒu	手；手首から先。(只 zhī)
□28. 手掌	shǒuzhǎng	手のひら。
□29. 手心	shǒuxīn	手のひらの中心部；たなごころ。
□30. 手背	shǒubèi	手の甲。
□31. 指头	zhǐtóu	ゆび。(口) zhítouとも。
□32. 指甲	zhǐjiǎ	つめ。(口) zhǐjiǎとも。
□33. 胳膊	gēbo	うで。“胳膊”(gēbei)とも。
□34. 膀子	bǎngzi	上腕，二の腕；肩のあたりまで。
□35. 腕子	wànzǐ	手首。
□36. 肘	zhǒu	ひじ。“胳膊肘子”(gēbozhǒuzǐ)とも。
□37. 肩膀(儿)	jiānbǎng(r)	かた。
□38. 夹肢窝	gāzhiwō	わきの下。“胳肢窝”とも書く。
□39. 胸	xiōng	むね。“胸脯”(xiōngpú)とも。
□40. 肚子	dùzi	はら。
□41. 肚脐(儿)	dùqí(r)	へそ。“肚脐眼儿”(dùqíyǎnr)とも。
□42. 背	bèi	背，背中。“脊梁”(jǐliang)とも。
□43. 腰	yāo	こし。
□44. 屁股	pìgu	しり。
□45. 腿	tuǐ	あし；足首から上。(条 tiáo)
□46. 大腿	dàtuǐ	大腿，ふともも。
□47. 小腿	xiǎotuǐ	すね；ひざから足首まで。
□48. 膝盖	xīgài	ひざ，ひざがしら。
□49. 脚	jiǎo	あし；足首から先。(只 zhī)
□50. 脚掌	jiǎozhǎng	足の裏。
□51. 脚心	jiǎoxīn	足の裏の中心部；土踏まず。
□52. 脚背	jiǎobèi	足の甲。“脚面”(jiǎomiàn)とも。
□53. 脚腕子	jiǎowànzǐ	足首。
□54. 踝子骨	huáizigǔ	くるぶし。
□55. 脚跟	jiǎogēn	かかと，きびす。
□56. 脚趾	jiǎozhǐ	足のゆび。“脚指头”(jiǎozhǐtóu)とも。
□57. 骨骼	gǔgé	骨格。
□58. 骨头	gǔtóu	骨。
□59. 肌肉	jīròu	筋肉。
□60. 皮肤	pífū	はだ，ひふ。

絵で見る成语 (14)

絵・張恢

文・『中国語の環』編集室



揠苗助长 yà miáo zhù zhǎng

苗を助けて長ぜしむ；余計な力添えをして、かえって失敗してしまうことのとえ。逆効果を招く。『孟子・公孫丑上』に見える宋の国の愚かな農民の故事から。



掩耳盗铃 yǎn ěr dào líng

耳を掩（おお）いて鈴を盗む；良心にふたをして悪事をはたらく。自分で自分を欺く。『呂氏春秋・自知』に見える耳をふさいで鐘を盗もうとした男の故事から。“鈴”はもと“钟”。



摇摇欲坠 yáo yáo yù zhuì

ゆらゆら揺れていまにも落ちそうである；不安定でいまにも倒れそうなさま。（制度・機構などが）不安定でいまにも崩壊しそうである。



一帆风顺 yī fān fēng shùn

追い手に帆を上げる；なんの障害もなく事が順調に運ぶたとえ。順風に帆を上げる。順風満帆。



衣锦还乡 yī jīn huán xiāng

錦を着て故郷に帰る；立身出世して故郷に帰る。故郷に錦を飾る。“衣锦荣归”（yī jīn róng guī）とも。



依依不舍 yī yī bù shě

名残惜しくて別れがたい；未練が残って立ち去りがたい。“依依难舍”（yī yī nán shě）とも。



以貌取人 yǐ mào qǔ rén

容貌を見て人を採る；見掛けて人の優劣を判断する。



倚老卖老 yǐ lǎo mài lǎo

年寄り風を吹かす；年寄りぶって威張る。



饮水思源 yǐn shuǐ sī yuán

水を飲む時にその源を思う；幸福になってもその幸福のよって来たところを忘れない。



愚公移山 yú gōng yí shān

愚公山を移す；たゆまぬ努力を続ければいつかは大きな事業を成し遂げることができるというたとえ。『列子・湯問』に見える故事から。



冤家路窄 yuān jiā lù zhǎi

敵（かたき）どうしはよく会おうものである；会いたくない者どうしはかえって顔を合わしやすいものである。



云消雾散 yún xiāo wù sàn

雲消え霧散ず；快晴になる。また跡形もなく消え去る。雲散霧消（うんさんむしょう）。後者は多く“烟消云散”（yān xiāo yún sàn）として。

“很美” “特别美” “多美”

日本中国語検定協会評議員・文京学院大学 魯 曉琨

“很” “特别” “多” はいずれも形容詞の程度を強める副詞で、程度副詞と言われているが、三者を言い換えてみると、談話における違いが見えてきます。下記の言い方は成り立ちません。

(1)* 暑假我去北海道了，北海道的风景多美。

(2)* 你看，这儿的风景特别美。

しかし、(1)の“多”と(2)の“特别”をチェンジすれば、両者とも成立できるようになります。

(3)暑假我去北海道了，北海道的风景特别美。

(夏休みに北海道に行ってきました。北海道の景色はすごく美しいです。)

(4)你看，这儿的风景多美。

(ほら、見て、ここの景色はなんと美しいのでしょうか。)

また、(3)も(4)も“很”を用いることができます。

(5)暑假我去北海道了，北海道的风景很美。

(6)你看，这儿的风景很美。

上の例文から“特别”と“多”はそれぞれ異なった談話場面を要求するのに対し、“很”はどちらの場面でも用いることができるということが明らかになりました。そのため、“特别”と“多”の用いられる場面の違いがわからなければ、間違いが生じることになります。

上の“很美” “特别美” “多美”を用いる場合は、いずれも話し手は自分の経験したことについて評価しているのです。ここでは、話し手の経験したことを話し手に属している情報と言います。同じ情報を談話時に、聞き手も持っている場合もあれば、聞き手が持っていない場合もあります。実は、情報の所在によって、“很” “特别” “多”の使い分けが決められます。

そのルールは以下の通りです。

“特别”は情報が話し手のみに属しているときに使えます。

“多”は情報が話し手と聞き手の双方にあるときに使えます。

“很”はどちらのケースも使えます。

例(3)では、話し手が北海道に行ってきて、“北海道的风景”という情報を話し手のみが持っているため、“特别”を用いるが、一方、(4)では、“你看”からわかるように二人が一緒にここの景色を見ていて、“这儿的风景”という情報は話し手も聞き手も持っているため、“多”を用います。

このような情報の所在により使い分ける程度副詞はほかにもあります。まず、下記の用例を見てみましょう。

(7) a 我昨天买了一件衣服，颜色可鲜艳了。

(私は昨日服を買いました。色がとても鮮やかです。)

b * 你这件衣服，颜色可鲜艳了。

(8) a 我妈身体可好了，都快八十了，每年都去外国旅游。

(母はとても健康で、もうすぐ80歳ですが、毎年海外旅行をします。)

b * 你妈身体可好了，都快八十了，每年都去外国旅游。

例(7) a, (8) a には副詞“可”が用いられ、“可”を用いる場合は“了”を伴い、“可…了”となります。“可…了”の用いられる場面を観察すれば、すぐ分かっていただけのでしょう。情報所在に対する要求は、“可…了”は“特別”と同じです。(7)では、聞き手の知らない情報である自分の洋服の色について評価するときは、“可…了”を用いるが、聞き手の知っている情報である聞き手の洋服の色について評価するときは、用いることができません。(8)では、聞き手の知らない情報である自分の母の健康状態について評価するときは、“可…了”を用いるが、聞き手の知っている情報である聞き手のお母さんの健康状態について評価するときは、用いることができません。

また、副詞“真”は“很”と同じであり、情報が聞き手にあるか否かに関わらず、どちらのケースも用いることができます。(7) b, (8) b も“真”が使えます。

(9) 你这件衣服，颜色真鲜艳。

(10) 你妈身体真好，都快八十了，每年都去外国旅游。

話し手が自分の経験したことについて評価する場合では、聞き手に情報があるかどうかによって、上の副詞の使い分けは以下のようにまとめられます。

“特別”“可…了”は情報が話し手のみに属しているときに使えます。

“多/多么…(啊)”は情報が話し手と聞き手の双方にあるときに使えます。

“很”“真”はどちらのケースも使えます。

しかし、話し手が評価を行うことは必ずしも話し手が経験したことではありません。下記の例を見てみましょう。

(11) a 听说北海道的风景很美。

b * 听说北海道的风景真美。

例(11)のように、話し手が自分の経験したことがないことについて評価する場合、“很”は使えるが、“真”は使えません。たとえば、刺身を食べたことがない人は“生鱼片真好吃”とは言えません。

“很”“真”の違いはこの点にとどまりません。下記の(12)は確実に話し手が自分で経験したことで、普通は“真”は使えません。

(12) * 我打网球打得真好。

その理由はどこにあるのか、今回は異なる視点から“很”“真”“挺”を弁別します。楽しみにしててください。

参考文献

楊達1991「形容詞の程度を強める副詞について—情報の縄張り理論を通じて」『中国語学』第238号

どこがおかしい？なぜおかしい？

——「日文中訳添削講座」から (20)

(81) 誰が君にそうさせたのか。

使役の“让”や“叫”を用いる文であることは皆さんよく理解されていました。中には“使”を使った答えもありましたが、“使”は一般的に“使我们深受感动”のように文語的な意味合いが強く、ここで用いるのは適当ではありません。

意外に多かったのが、“谁让你做这样的？”とした答案でした。「そうする」はつまり「そのようにする」で、「そのように」が「する」を修飾している形です。ですからこれは“这么”の副詞的用法を使い、“让你这么做”や“叫你这么干”などとなります。

《参考訳文》 谁让你这么做的？
是谁叫你这么干的？

(82) 家に1台パソコンがあるけれど、あまり使いやすくない。

“虽然……但是/可是……”（…ではあるが、しかし…）を用いて逆接関係を表す文を作ります。この点は、みなさん比較的よくできていました。

存在を表す場合は「場所を表す名詞＋“有”」です。これを“在”＋場所を表す名詞として“电脑在家”としたり、文頭に“有”を置いたりした答案がありました。いずれも誤りです。

「使いやすくない」は“不太好用”“不太好使”です。この時の“好”は、その後の動詞の意味に対して「動作がし易い」という表現になります。

《参考訳文》 虽然我家里有台电脑，但是不太好。
我家里虽然有一台电脑，可是不太好使。

(83) 彼の行くところ、犬はどこへでもついていく。

疑問代詞の“哪儿”や“哪里”による呼応表現を使います。「どこかに行けば、そのどこかについていく」→「どこへでも行くところについていく」と考えます。よってこの文は“他走到哪里，狗就跟到哪里”と表すことができます。彼がある地点に到達するところはどこでもと、結果補語を用い表現しています。“……去哪里，……去哪里”と訳した回答も見られましたが、これでは「彼が行くところへはどこへでも行く」となり、「どこへでもついていく」という意味が表現できていません。あえてこの意味を他の表現を使って表すなら、参考訳文にあるように、後半の動詞の“到”の前に“跟”を使って、「…に着いて、…に従って」という表現を加える必要があります。

《参考訳文》 他去哪儿，狗就跟他去哪儿。

不管他去哪儿，狗都跟他去哪儿。
他走到哪里，狗就跟到哪里。

(84) いま手元が不如意ですし、時間もありませんので、今回は遠慮させていただきます。

文前半は並列関係になっており、こちらは特に問題ありませんが、さらに文の後半とは因果関係になっていますので、前半の条件を受けるために、参考訳文のように副詞“就”を用いるとよりスマートになります。

「手元が不如意である」は、「手头紧」「手头不宽裕」「手头拮据」などで表現することができます。

最後の「遠慮させていただきます」はいかにも日本的な表現ですが、“不去”または“去不了liào”とストレートに中訳することもできますし、“推辞”“婉辞”“不奉陪”“谢绝您的邀请”などの婉曲的な表現を用いることもできます。これらの語の後に変化を表す“了”を用いる必要があることに注意しましょう。

- 《参考訳文》 ①我现在手头紧，而且没有时间，这次就不去了。
②眼下手头不宽裕，又没有工夫，这次我就失陪了。

(85) ネクタイというものは、女心と同じであって、变幻自在であって、とらえどころがない。始末がわるい。そこが多分おもしろいのだろうけれど。

文学的な表現ですので、訳し方は一律に要求しませんが、文全体の流れが通るように添削しました。

多くの方に共通した問題点を取り上げますと、まず最後の「そこが多分おもしろいのだろうけれど」についてです。参考訳文①のように“这或许正是它的妙趣之处”と訳す場合、“正是”をきちんと用いた答えはあまり見られませんでした。「ちょうど…だ」というニュアンスを表す“正是”は「そこが…」の訳語としてぴったりだと思えます。代わりに“就是”を用いた訳も少なくありませんでしたが、「その通りである」というニュアンスになってしまいます。また、「そこがおもしろい」については“这个地方很有意思”という答えを“这一点很有意思”または“这(正)是有趣的地方”と添削しましたが、できれば“这正是妙趣/引人入胜之处”“这也是其魅力/兴致所在”と彩りを加えた表現が望まれるところです。

「…と同じであって」は“像/和/与……一样”の形を用いますが、もし“是像……”を用いる場合、その文末を“的”で呼応させ、“是……的”の形で完成しなければなりません。

- 《参考訳文》 ①说到领带，它就像女人的心一样，变幻无常，难以把握。不过，这或许正是它的妙趣之处。
②领带如同女人的心情一般，千变万化，让人琢磨不透，难以对付。这也可以说是其魅力所在吧。

(文責：高部千春)

抜群の人気を得た流行語——“给力”

日本中国語検定協会評議員・共立女子大学 李錚強

“给力”(gěilì)はもともと辞書にも載っていなかった北方の方言で、形容詞“带劲”(dàijìn—力がみなぎっている、興味がわく)の同義語であり、一般語としてはほとんど用いられなかった。この“给力”が2010年よりいきなりマスコミで頻繁に使われるようになり、たったの2年余りで新しい流行語として2012年に改訂された《现代汉语词典 第6版》(商務印書館)に収録された。

方言としてしか使われていなかった“给力”が急速に流行語に変身できたのは、実は日本の「増田こうすけ劇場ギャグ漫画日和」の台詞の訳語に由来する。2010年、人気アニメ動画“日和《西游记旅程の终点》”(ギャグマンガ日和 第10話 西遊記～旅の終わり～)が中国ウェブサイトで放送され、抜群の人気を得た主人公の孫悟空が登場一番しゃべる台詞が“这就是天竺吗？不给力呀，老师！”であった。この台詞は「これが天竺か。すごい地味ですね、法師」を中訳したものである。即ち、「地味だ」を“不给力”と訳したのである。確かに「地味だ」は中訳しにくい語ではあるが、“不给力”という訳は決して分かりやすいとは言えないだろう。しかし、このあいまいな訳語が注目され、あっという間にネット上の流行語となった。さらに、同年、《人民日报》を始め、中国の新聞や雑誌など紙媒体でも“给力”は広く使われ、“中央电视台”(CCTV)のニュースキャスターも積極的に使い始めたことによって、急速に普及し、とうとう2010年度の流行語ベストテンに入るほどの好評を博した新語となった。

ウェブ上のアニメ動画の台詞からウェブ上の特定の仲間の中で使用されたばかりか、1年も経たないうちにウェブ社会から現実の社会へと広まり、どの世代でも通用する流行語となった。そして誕生して3年も経たないうちに権威のある辞典にも収録されたことは“给力”という語の魅力だと言わざるを得ない。

さて、“给力”はどのように用いられているのであろうか。

- ①「力になる」「支持する」という動詞として使われている。例えば，“只要政策给力，新能源汽车一定能够发展起来。”(政策が支えてくれさえすれば、新エネルギー自動車は必ず発展する。)
 - ②動詞として「尽力する」「役に立つ」という意味もある。例えば，“在我学习中文的过程中，这本教材最给力。”(この教科書は私の中国語の勉強にもっとも役に立った。)
 - ③形容詞として「元気がある」「おもしろい」「すごい」という意味もある。例えば，“这场比赛真给力。”(この試合は本当におもしろい。)
- 前述の「地味ですね」という台詞を“不给力呀”としたのはこの意味に否定語“不”を付けた訳し方だと考えられる。

中国語学習のミソ

山田平

中国語の習熟度を測る物差しとして、「成語」と「発音の正確さ」があると感じている。中国語では、日本で言うところの四字熟語やことわざが、会話でも多く用いられる。日本語の日常会話で四字熟語やことわざを多用すると、学があるところを周りに見せつけてやろうという、どこか嫌味な感じがあるが、中国語においては生活の中で用いられるものがとても多いため、それほど嫌味な感じはない。「莫名其妙」や「順其自然」はその典型であろうか。

また、中国語母語話者は、正確でない発音で中国語を話されることを嫌うことが多い。他の外国語と比較しても、中国語の発音の難易度は高いが、彼らの目は厳しい。「そんなに汚い発音なら話さなくて結構！」と思う者も少なくない。中国語の非母語話者である私たちの中国語を、現地で受け入れてもらうためには、正確な発音で話し、更に、欲を言えば成語を上手に使いこなすことが要求される。

私事ではあるが、台湾へ1年間交換留学をした際に、これらのことを強く感じた。留学前に自分の中国語を日常会話に不自由しないレベルにまで上げたくうえで、最初にぶつかった壁が成語である。最初は相手が使う成語とおぼしき言葉が何を言わんとしているかが理解できず苦しんだ。しかし、学習が進んで次第に理解できるようになり、更に自分もある程度使いこなせるようになると、少ない文字数で言いたいことを表現できる便利なものだと感じるようになった。その壁にぶつかって以来、中国語を聴く時や読む時には成語に注意する癖がついた。ノート代わりに作った成語だけの暗記カードも、数か月でいっぱいになった。日常生活で接する成語の数が多い証拠である。

発音におけるの難しさも、留学中に改めて実感した。anとangの違いや、zhi、chi、shiの正確な発音など、母語話者は常に私たち学習者の発音に目を光らせている。これらが全体的に正確でないと、彼らのイライラが募り、“我聽不懂你在說什麼！”とつき返されてしまうことになる。「通じればいい」という正論はなかなか聞いてもらえず、日々の意思疎通に苦勞する留学生を多く見た。また、母語話者からの「日本人の中国語の発音はひどい」というクレームも多く耳にした。

中国語学習において発音に重きを置くことは、単なる「ネイティブ気取り」ではなく、彼らとの円滑な意思疎通において不可欠なことである。

帰国後に受験した中検2級の試験問題にも、成語が関係した問題があったのを記憶している。中国語検定においても、成語は2級以上において求められる能力の一つなのであろう。幸いにも、私は成語の重要性を留学中に叩き込まれていたため、この配点は取りこぼしなく、結果的に合格できた。留学先で学んだことが間違っていなかったことを、試験問題を通して感じる事ができた。日本における中国語学

習では、成語やその重要性に触れる機会は決して多くないが、それらに加えて正確な発音を意識して学習することで、中国語をきちんと習得できるのではないかと考える。
(第79回 2級合格, 花王株式会社勤務)

出来る男は字がていねい——簡体字を正確に

上野恵司

まず初めにお詫びしなければならない。前号に掲載した「簡体字を正確に」の中の筆順表に誤りがあった。30. “門”の筆順は、正しくは“` | 門”の3画である。日本式に立て棒から先に書くのは正しくない。

上の誤りを除くと、おおむね好評であった。「大好評」であったと言ってもよさそうだ。「知らなかった」、「気づかなかった」、「ずっと間違えて書いていた」などの声が寄せられた。コピーして生徒に配ったという高校の先生もいらっしやった。

近ごろの教室の様子を知らないが、わたくしが習った頃の先生方は簡体字の使用に厳しかった。恩師の故・牛島徳次先生などは、私がうっかり誤字を書いたりしようものなら、まるで鬼の首でも取ったようにはしゃいで笑いにされた。

検定試験の答案や協会が行なっている通信添削の提出物を見ていて、目立って誤りの多いいくつかの文字がある。

“差”(差), “帯”(帯), “喝”(喝), “免”(免), “器”(器), “浅”(浅), “效”(効), “真”(真), “直”(直), “着”(着)……。

これらの字は“真”と“直”を除いて、中国語と日本語で筆画数が異なる。1画や2画、違っててもどうでもよいようなものの、この画数を誤ると辞書を検索する時にたちまち困る。「もう紙の辞書など引きません」ですか。学習が進んで、将来、さまざまな資料や辞書類に接しなければならなくなった時、文字の画数を正しく数えられるかどうか、大きく影響してきます。そんな遠い先のことはおくとして、学んでいる言語の中でこうと定められている以上、忠実にそれに従って書くというのが、学ぶ者の心構えとして初歩の初歩、基本の「キ」ではないだろうか。

「賢い女は料理が上手い」という言い方があったかと思う。これに倣うと「出来る男は字がていねい」とでも言えようか。男性に限るわけではないが、特に男の人の答案や提出物に乱雑な文字や誤字が目立つ。(日本中国語検定協会理事長)

『読者の広場』への投稿を募集しています。中国語に関すること、検定試験に関する事等、400字～1,000字程度でお寄せください（Eメール、郵便ともに可）。採用された方には、記念品を進呈します。

なお、ご投稿いただいた原稿を掲載するにあたり、編集室側で若干の加筆・修正をさせていただきます。予めご了承ください。